

福岡・大門遺跡^{だいもん}

- 1 所在地 福岡県北九州市小倉北区大門二丁目
- 2 調査期間 二〇〇四年(平16)六月～七月
- 3 発掘機関 (財)北九州市芸術文化振興財団
- 4 調査担当者 山口信義・山手誠治
- 5 遺跡の種類 町屋跡
- 6 遺跡の年代 江戸時代～明治時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



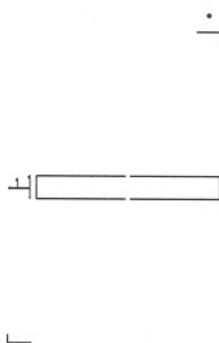
(小倉)

大門遺跡は、小倉城二ノ丸の北側に堀を隔てた町屋の埋立造成地にあたる。今回の調査は地方主要道の拡幅工事に伴うもので、調査区の北端は長崎街道筋と大門跡に接する。調査の結果、室町と大門町との間を南北に通る堀と石垣を検出した。石垣は上部が削平されており、高さ3m分のみが残存していた。

木簡は、堀内の砂泥層から、大量の陶磁器・瓦とともに一点が出土した。石垣は明治時代に修復を受けており、近代のものである可能性もある。共存遺物の中には、人工コバルト釉型紙刷りの陶磁器片がある。

8 木簡の釈文・内容

- (1) ・「
可押取候
相骨族有之殿科
堅令停止田拵
つゝて打掛魚取事
此堀ちりあへた」



310×130×20 011

9 関係文献

釈読は、北九州市立自然史・歴史博物館の永尾正剛氏による。
 (財)北九州市芸術文化振興財団『小倉城桜町口門跡・大門遺跡』
 (北九州市埋蔵文化財調査報告書三七〇、二〇〇七年)

(山口信義)

